東日本鉄道OB会の皆さまへ

東日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長
喜勢 陽一

このたび、深澤会長の後を受け、4月1日付で社長に就任した喜勢です。大きな時代の変革期に、新たに社長に就任するにあたり身の引き締まる思いです。東日本鉄道OB会の皆さまにおかれましては、日頃から名誉駅長や各種ボランティア活動、「JR東日本シニアサポート制度」などを通じた地域社会との連携のほか、団体旅行をはじめとした増収活動など、当社業務に多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社発足以来この37年間は、決して平たんな道のりではありませんでした。東日本大震災や直近のコロナ禍など、厳しい経営環境下での事業運営を課されることはありましたが、JR東日本グループ社員一人ひとりの弛まぬ努力と結束で多くの困難を乗り越え、今日までの成長と発展を見ることができたことは、グループで働くすべての社員が大いなる誇りとできるところであります。

新たに始まった2024年度は、2つの意味でJR東日本グループにとって大きな節目の年となります。まず社会的には、日本銀行のゼロ金利政策の転換に象徴されるように、ポストコロナの経済が本格始動する年となります。グループ内にあっては、この3月末までに国鉄採用世代の大半の方々が60歳の定年を迎えられました。こうした世の中の大きな変容を、むしろこれまで事業全般にわたって取組んできた構造改革をさらに加速させる好機と捉え、新たな成長戦略を描き、これを果敢に推進することで、新しい時代を切り拓き、新しいJR東日本グループを構築していきたいと思います。

大きな時代の変革期にあることから、変えねばならない課題はますます増加していきますが、一方で決して変えてはならないこともあります。その第一は「『究極の安全』の追求」です。「究極の安全」とは、常に事故ゼロをめざす取組みの中で、不断に安全レベルを向上させていくという私たちの安全哲学の大基本です。折しも新しい安全5カ年計画が、この新年度よりスタートしました。コロナ禍が終息し、さまざまな経営のモードチェンジを進めていくこの機に、安全についても、日々の仕事の中で、基本動作やルールがしっかり守られているか、作業の遂行にあたって盲点となっているところはないかなど、改めてグループを挙げて点検し、確認していきます。そして、お客さまの死傷事故はもちろんのこと、私たちと一緒に作業に携わる仲間の死傷事故もなくさなければいけない、という強い決意をグループ全体のものとしてさらに固めていきます。

次に変えていくものとして、JR東日本グループは、鉄道を中心としたモビリティと生活ソリューションの二軸で経営を支え、いかなる経営環境の変化にあってもサステナブルに成長を続ける強靭な経営体質の構築に取組んでいきます。まずモビリティの中心である鉄道については、お客さまの日々の生活と日本の経済活動を支える重要な社会インフラであるとともに、地域を元気にするという役割は、今後とも変わるものではありません。鉄道に、これからもさまざまな先進的な技術や知見を積極的に導入することで、鉄道を時代の先端を行く技術サービス事業に成長させ、これまでの技術的蓄積から、新たなビジネスを外に向かって創出していきます。急速に過疎化が進む地方においては、何がサステナブルな交通モードか、地域の皆さまとしっかり議論をしていきます。

一方の生活ソリューションについては、「TAKANAWA GATEWAY CITY」に象徴されるように、JR東日本グループには大きな成長の基盤と潜在力があります。グループに集まる膨大なデータや情報を駆使したマーケティング戦略により、駅空間などリアルなアセットを持つグループの強みをさらなる強みとして再構築するとともに、戦略的提携などを通じて新たな事業フロンティアを拡大していかねばなりません。失敗を恐れず、果断なチャレンジにより、JR東日本グループの「成長のエンジン」を創出していきます。

最後に、JR東日本グループは、より良い世の中を創るための事業活動を通じて利益成長をし、創出された利益を、お客さまや地域の皆さま、株主や投資家の皆さま、そしてグループ社員や家族の幸福の実現に還元するとともに、グループの成長にも振り分け、こうした成長と創造のサイクルを回していくことによりサステナブルに発展していく、「四方良し」の志の高い企業グループでありたいと考えています。

新しい時代への扉は大きく開かれています。引き続きJR東日本グループへのご支援をお願い申し上げますとともに、末筆ではございますが、皆さまのご健康とご多幸を祈念いたしまして、私の就任の挨拶とさせていただきます。